

2022年11月3日～30日にかけて、魅力的なメインストリートづくりに向けて公共空間活用の社会実験を開催しました。

初日の11月3日には、社会実験の内容を実際に体験し、通りのあり方を考えるオープニングイベントを開催しました。

オープニングイベント前半 社会実験モニターツアー

4つのグループに分かれて、社会実験の内容を実際に体験してもらいました。

自転車の通行もあり、安心して歩きづらい。



少し無機質だった空間が緑とウッ드의質感によって上質になっているように感じました。遠くから視線も通るので、今後に向けての共感も得られそう。



みちクルのロゴのデザインが良かったです。街に満ち溢れるとインパクトがあると思いました。

やはり無電柱区間は空間がすっきりしていて良い。



ベンチがあると休憩できたりテイクアウトが出来て良い。



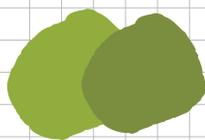
東駅前公園が最高でした！これまでの駅から市役所までが少し遠かったのですが途中で一休みするのにピッタリです。



全体的にプランターに植えてある植物が緑のものが多かったのもう少し色味がある植物が植えてあっても良いかも。



ほぼ歩行者のみの道としては十分すぎる広さがあるので、ウッドデッキなどの設置はとても可能性を感じました。道が居場所にもなる！



オープニングイベント後半 山口先生話題提供

山口先生をゲストに迎え、海外事例を中心に話題提供をいただき、社会実験を今後どのように活かしていくのかを考えました。



今回の社会実験を踏まえ

- ①沿道店舗等による歩道利用の促進
 - ②みどり・植栽の維持管理手法の模索
 - ③道路空間再整備に関する検討
- が望ましいのではないのでしょうか？

①沿道店舗等による歩道利用の促進

海外では沿道店舗が歩道をうまく利用しています。店舗の窓部分にテーブルを設置し、スタンディングテーブルにしたり、狭い歩道でも店舗側の70cmほどの幅にイスとテーブルを一列に置いてテラス席にしたりして、利用者が屋外での飲食を楽しんでいます。

現在は道路に開いた設計の店舗は少ないのが現状です。今回のような社会実験をきっかけにしながら、店舗の歩道利用を進めていくと、新しいまちの楽しみ方ができるのではないのでしょうか。

参加者の感想

店舗さんの道路利用は是非とも進んでほしいと思います。同時に、周辺住民や周辺店舗がそれを当たり前を受け入れられないと店側もリスク高くてなかなか出来ない気もします。

②みどり・植栽の維持管理手法の模索

みどりや植栽は道路空間の景観を豊かにします。植栽と一体となったファニチャーを設置し、みどりを身近に感じてもらうことや、ある程度の高さに設置して目線に入れることなど、いくつか大切なことがあります。最も重要なことは「常に手入れをしていかないといけない」ということです。

海外では、民間の発想を行政が支援している事例や、植栽プランターに広告を掲示して、得られた収入を維持管理に還元している事例など様々な手法がみられます。

社会実験では一度に理解が広がるわけではありません。行政だけでなく、沿道の民間事業者や地域住民と協働しながら様々なトライを繰り返していく必要があります。

色んな価値観がある中で、出来るだけ多くの方に賛同いただくには、根気よく続けていくことが必要なんじゃないかな。失敗を許容しながら、成功に向かっていきたい。

③道路空間再整備に関する検討

道路空間の再整備は一朝一夕ではできません。まずは既存の空間でできることを考えていく必要があります。例えば、自転車レーンを車道に整備し、歩道と同じ舗装色にすることで、歩道が広がったように見えます。

道路空間の再整備にあたっては、交通再編とセットで考えていく必要があります。例えば一時的に通行止めを行い、どのような影響が生じるかを検証しながら進めていくことが求められます。

自転車と歩行者が違うところを通ることができるようになれば安全面でも良いと感じました。

社会実験の詳細は
ホームページ、
Facebook でチェック

茨木市ホームページ



Facebook

